

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
E1140003		肢体不自由児の心理・生理・病理 (Psychology, Physiology, and Pathology of Children with Physical Disabilities)							対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
必修	2	2・3(副免)	教育学部	後期	火4										
担当教員	氏名 五位塚和也 E-mail k-goitsuka@oita-u.ac.jp 内線 6149														
授業の概要	肢体不自由、とりわけ脳性まひのある幼児・児童・生徒の心理、生理、病理について、その基礎を学ぶ。また肢体不自由児の教育をする上で考慮する必要性のある併せ有する障害についても理解を深める。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	教育、医学、福祉における肢体不自由の定義及びその歴史的経緯について述べることができる。								○		○				
目標2	肢体不自由の代表的な起因疾患である脳性まひの心理・生理・病理について説明することができる。								○		○				
目標3	脳性まひに併せ有することが多いてんかん等について説明することができる。								○		○	○			
目標4	重い肢体不自由のある児童・生徒の摂食障害の理解と指導の仕方について述べることができる。								○		○	○			
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)									6		3	1			
授業の内容															
1 医学と福祉における肢体不自由の定義															
2 教育における肢体不自由の定義とその歴史的経緯															
3 肢体不自由の主な起因疾患 1 (脊椎・脊髄疾患など)															
4 肢体不自由の主な起因疾患 2 (骨関節疾患など)															
5 肢体不自由の主な起因疾患 3 (筋原性疾患など)															
6 肢体不自由児の社会性・心理・情緒の発達															
7 家庭や医療機関との連携															
8 脳性まひ児の運動発達とその障害 1 - 痙縮型のまひ児 -															
9 脳性まひ児の運動発達とその障害 2 - アテトーゼ型のまひ児 -															
10 脳性まひ児の心理的特性															
11 併せ有する障害としてのてんかん															
12 てんかん発作の介助と観察															
13 てんかんのある児童・生徒の学校での対応															
14 重度脳性まひ者の摂食障害の理解															
15 重度脳性まひ者の摂食指導															
ラーニンググループ	A:知識の定着・確認		○ 授業内でのペアもしくはグループによる意見交換の機会を設ける。		○ 授業内でのペアもしくはグループによるワークを通して体験的学習の機会を設ける。		○ 提示されたテーマをもとにグループで調べ学習を行い、発表する機会を設ける。		工夫その他の	受講者の学習保障のために、Moodle上に毎回授業動画および授業の配付資料を公開する。 授業における双方向性の向上のために、Moodle上に毎回の授業でコメントシートを設定し、受講生が記入したらその都度フィードバックを行う。					
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		Moodleに各回のを事前学習の課題を提示しているため、各自で内容を確認し、学習課題に取り組んでおくこと(1.5h×15回=22.5h)。												
	事後学修		学習した内容を振り返るとともに、授業で扱った内容や関連する課題について論文、書籍、インターネット等を用いて調べ、ノートに記述すること(1.5h×15回=22.5h)。												
	想定時間合計		45												
教科書		教科書を指定しない。適宜、資料を配布する。													
参考書		「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領(平成29年4月公示)」 「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編・各教科等編・自立活動編(幼稚部・小学部・中学部) 平成30年3月公示」(文部科学省) 「特別支援学校高等部学習指導要領(平成31年2月公示)」 篠田達明(監) 沖高司・岡川敏郎・十橋丰子(編)「肢体不自由児の医療・療育・教育 改訂3版」金芳堂、2015年。ISBN:978-4-7653-1628-6													

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験	50%	○	○	○	○						
	授業内での発表課題	30%	○	○	○	○						
	平常点（受講態度・授業への取り組み方等）	20%	○	○	○	○						
注意事項	配付したプリントはファイルにまとめ、授業の時に毎回持参すること。教員としての資質を身につける授業であるから、遅刻、無断欠席、私語、居眠り、携帯やスマホの使用、授業と関係ない書籍を読んだり作業をすること等がないこと（平常点で考慮）。											
備考	なし。											
リンク												
	URL											
担当教員の 実務経験の有無	○											
教員の 実務経験	臨床心理士・公認心理師											
実務経験を いかした 教育内容	心理職として特別支援学校の児童生徒および保護者への支援に関する実務経験を活かし、肢体不自由の児童生徒の心理・生理・病理に関する特徴を踏まえた支援のあり方について、具体的な場面を想定した演習を取り入れて授業を進行する。											